

令和7年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

中学生の部 可児保護区保護司会 会長賞

「小さな声かけ」

可児市立西可児中学校 3年

塙田 ひなの

学校から家に帰ってきた私にかける母の決まった言葉はいつも、「今日学校で何かあった？」です。毎日のように私に聞くこの言葉に対して、私は、そんなに毎日も聞かなくてもいいのに、毎日も聞いてきて正直、少しうつとうしい、と感じてしまう時もあります。

ある日、私は母に、「なんでそんなに毎日も聞いてくるの？」と質問しました。すると母は、「何か嫌な事があった時に自分では言い出しにくいから話すきっかけになるでしょ。」その言葉を聞いて、私は今までの経験を思い出してみました。よく、何か困った事があったらすぐに家族でも友人でも相談してみよう、というのを言われるけれど、実際に家族に相談しようとすると恥ずかしくて言いにくい、ということが何回かありました。そして、母のこの言葉を聞いて、母は何かあった時に話しやすいきっかけをつくってくれているんだと気づき、この言葉の大切さを実感しました。

そして、この経験から、私はもっと小さな声かけを増やしていくこうと考えました。学校の仲間の様子を見て「大丈夫？何かあったの？」と声をかけることで、悩みを相談するきっかけになるし、その悩みがもしかしたら解決して心が軽くなるかもしれません。このように、小さな声かけの大切さを実感した場面は他にもあります。

私の登校する道の横断歩道には、いつも立っていてくれる地域の方がいます。その方は、私たちが横断歩道を渡る時に車を止めて安全に渡らせてくれるだけでなく、声もかけてくれます。「気をつけてね。行ってらっしゃい」「頑張ってね」この言葉を聞く度に、私は励まされている気持ちになります。家族でも知り合いでもない他人であるけれど、心が温かくなります。

言葉は、家族、他人関係なく人の心を明るくさせてくれるものだと思います。このような言葉での関わりをもっと増やしていく事が、社会を明るくさせることにつながると考えます。

よくニュースで、嫌な気持ちやストレスが溜まって犯罪や非行をしてしまった人を見る事があります。でもそのような犯罪や非行をしてしまう人が全て悪い、そうは言い切れない、そのような気持ちにさせてしまった出来事も悪いのではないか。私はそう考えるとともに、そのような嫌な気持ちは溜まってしまう前に誰かに相談すればいいのに、しかし私はそこではっと思い返しました。相談したい事があってもなかなか相談できないのは私も同じだ

ったんだ、でもそこで母の声かけが話すきっかけを作ってくれていることで嫌な気持ちを溜め込まないで生活できている。地域の人の声かけで温かい気持ちになれているのだと気づきました。より多くの人が相手を気にかける事や、小さなことでも声に出して相手と関わることで、日常生活や、気持ちがより良くなるだけでなく、社会で起こっている問題について解決していくための一歩だと思います。

このような経験から、犯罪や非行を少しでも防いだり、社会を明るくしていったりするために大切なことは小さな声かけだと気づかせてくれました。